



骨髄採取後、急性の腎臓機能障害を発症した事例について

公益財団法人日本骨髄バンク
理事長 齋藤 英彦

11月中旬に骨髄バンクを介して骨髄提供した30歳代の女性に提供直後から、嘔気・嘔吐、下腹部痛といった症状が現れ、検査の結果、腎臓機能障害が認められました。

採取施設では、尿量が低下したため利尿剤を点滴投与し、経過を観察しました。一時、腎臓機能の悪化を示す検査結果が通常の3~4倍程度に上昇しました。

その後、尿量も増加して腎臓機能を示す数値も改善され、骨髄採取の約1週間後に軽快退院されました。採取直後に腎臓機能が悪化した原因は不明です。

日本骨髄バンクでは非血縁者間骨髄採取認定施設に対し、緊急安全情報を発出し、情報共有を行いました。また、調査委員会を設置し、原因について調査を行うこととしています。

調査結果が判明した際には、あらためてご報告します。

<参考>

◆利尿剤

排尿は、体内から老廃物を体外へ排出する最も効果的な手段です。尿は腎臓でつくられ、腎臓は体内の状況に応じて尿の量や濃度を調節し、全身の体液を一定に保つよう制御しています。利尿薬は、この調節機構が適切にはたらかない病態などにおいて、水分を体外に排出するために用いられています。

◆腎臓機能障害

体内の状況に応じて尿の量や濃度を調節し、全身の体液を一定に保つ制御機能の働きが低下した状態です。

<報道に際してのお願い>

- ・プライバシー保護のため、ドナーや施設についてこれ以上の情報はお伝えできませんのでご了承ください。
- ・骨髄バンクでは本件も含め、ドナーのリスク情報について情報開示に努めています。ただし、重大な事態が起こる危険性が必要以上に強調されますと、現在進行中のコーディネートがキャンセルされるなど、患者さんの生命に関わる可能性もあります。慎重な報道をお願いします。

■本件に関するお問い合わせ:

公益財団法人 日本骨髄バンク ドナーコーディネート部:

折原、杉村、橋下

電話: 03-5280-8111(代表)